University of Phayao

パヤオ大学

■所在地
19 Moo 2, Tambon Maeka, Amphur Muang, Phayao 56000, Thailand
ホームページ：http://www.up.ac.th/en/

主な対象学部
外国語学部：学部留学

沿革

パヤオ大学は2010年に創設された総合大学で、医学部、工学部、法学部、人文学部などの学部と大学院を有し、学生数は３万名を超える。人文学部の中には日本語学科があり、一学年30名以上のタイ人が日本語を学習している。日本語能力を有するタイ人教員のほかに、本学大学院修了の田中博之先生をはじめ、４人の日本人教員が勤務している。

パヤオ大学では毎年本学の教員との外国語教育ワークショップが開催され、さらに毎年２月には10名ほどの本学の学生がパヤオ大学で短期研修を行っている。

特色

本学の学生は人文学部日本語学科に所属する。外国語としての日本語教育、日タイ対照言語学、タイ語、英語などの授業を履修することになる。日本に興味を持つ外国人が増加する中で、英語で交流するのではなく、外国人にどのように日本語を教えるか、という能力は今後さらに求められる。日本語教師になることが目標ではない学生にも、パヤオでの学習は有意義なものになることは間違いない。なお、タイの大学では外国人学生を含め全学生が制服着用を義務づけられている（自己負担）。

宿泊

キャンパス内の寮に入る。

生活

パヤオ市は北部タイ・チェンライから100km程度南に位置している。そこからさらに20km離れたところに大学がある。敷地が広大であることから、キャンパス内はバス（無料）を使って移動する。学内には食堂、コンビニ、銀行、医療センターがあり、さらに大学周辺には、飲食店、衣料品店、コンビニも多いので生活には不便がない。学生食堂では一食20～30バーツで食事がとれる。

条件

第二外国語でタイ語を履修していること。

留学時期

毎年８月から12月までの１学期間。

留学体験記

外国語学部国際交流・国際協力専攻　2016年留学　**阿部　美佑**

パヤオ大学に留学する前、私は４度タイを訪れました。首都であるバンコクも、観光地として有名なチェンマイも、国境付近の山地にも行きました。どんな環境でも心から楽しくて、何度タイを訪れても魅了されるばかりでした。パヤオ大学へ留学に行くのは私が２期目で、いろいろと大変だというお話はうかがっていましたが、「大丈夫、自分ならできる。その環境もまた自分が成長するチャンスだ」と期待ばかりが膨らんでいました。しかし、実際は失敗の連続でした。そんななかから学んだことをお話しします。

私が留学生活で苦労したことは友達と仲良くなることでした。寮に入ってすぐ、隣の部屋の学生と立ち話をする機会がありました。しかし、私の語学力では全くスムーズに会話することができませんでした。彼女らは、会うたびに声をかけてくれましたが、私はタイ語に自信がなくそれをストレスに感じていました。それを乗り越えなければ語学も伸びないと思いつつ、最初の２か月は逃げてばかりでした。

また、日本語学科の学生ともすぐに友達になりました。お互いの母語を勉強しているということもあり、コミュニケーションは比較的スムーズに取れていました。私はもっとみんなと仲良くなりたいと思い、休みの日、遊びに行こうと誘いました。そして、みんなでパヤオ市内へ行きましたがパヤオは田舎で娯楽施設はほとんどありません。なので「どこへ行こうか、何をしようか、何を食べようか」とウロウロするばかりでした。友達に休日の過ごし方を聞いても、「実家に帰る、部屋でゲームをする、寝る、宿題をする」といった答えばかりでした。もしも、ここがバンコクやチェンライのような都市だったら、みんなとたくさん遊んでもっと仲良くなれたのでは、とそんなことばかり考えていました。

そこで気づいたことがあります。それは、私がすぐに環境のせいにしてしまうという点です。日本にいた時は、勝手に窮屈さを感じ、タイにいる時はのびのびと過ごすことができて、タイは居心地がいい国だなあと思っていました。それが留学のモチベーションにもなっていました。日本にいた時は、「タイだったらなあ」と思い、いざパヤオに行ったら「バンコクだったらなあ」と無い物ねだりばかりしている自分に気がつきました。どんな環境でも自分が置かれた場所で楽しむ努力をしなければ、どこに行っても同じだと思いました。

そんな自分を変えるために、私はテコンドーを始めました。スポーツ経験はあまりなく、テコンドーがどんなものかもよく知らないで入りましたが、友達の輪を広げたい、もっと充実した留学生活にしたいと思いチャレンジしました。留学生という珍しい存在にみんなは興味津々で、休憩の度に話しかけてくれたり、手取り足取りテコンドーを教えてくれたりと本当に親切にしていただきました。テコンドーのメンバーは、日本語は勿論、英語も話せない人たちばかりでスポーツを通してタイ語を学べることがとても楽しく、ほぼ毎日参加していたため、一気に友達も増えました。

一人で新しいことを始めることや、新しい環境に飛び込むことは私にとって非常に勇気のいることですが、本当にいい経験といい友達ができたと思います。たった一人で海外に行き、周りに自分と同じ立場の人がいない状況で頼れるのは自分しかいないこと、いつまでも待っているだけでは誰も助けてくれないこと、自分を変えるのは自分しかいないことに気づきました。また、この成功体験は、今後新しいことにチャレンジする勇気と自信を与えてくれました。